



平成28年7月27日
独立行政法人国立科学博物館

絶滅危惧種の昆虫ニッポンハナダカバチが集団営巣！

国立科学博物館筑波実験植物園（園長 岩科 司）において絶滅危惧種の狩りバチ「ニッポンハナダカバチ」の集団営巣・繁殖を確認しました。

筑波実験植物園砂礫地植物区画（海岸性）で狩りバチ類の集団営巣を発見し、有剣ハチ類の専門家久松正樹博士（ミュージアムパーク茨城県自然博物館）に現地調査を依頼したところ、希少な狩りバチの一種、ニッポンハナダカバチ（ギングチバチ科）と確認しました。ニッポンハナダカバチの個体数は推定で1000個体を超えており、県内でもこれほど多数の個体が見られる場所は非常に珍しいようです。

ニッポンハナダカバチは、やわらかい砂地に穴を掘り、そこに毒針で麻酔をかけたハエの仲間を運び入れて子育てをする風変わりな習性を持つ昆虫です。園内では8月上旬頃までこの不思議な生態を観察することができます。

つきましては、本件について、取材・記事の掲載など広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

※本種は全国版及び茨城県のレッドデータブックの両方で絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。同じ場所では茨城県レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているヤマトスナハキバチ（ギングチバチ科）の営巣も確認しています。このような貴重な昆虫が多数繁殖していることは、開園から30年を経た筑波実験植物園の環境が、植物に加え、昆虫などの野生生物にとっても良好な生態系となっていることを示しています。

※詳細については、別紙をご参照ください。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部 研究推進・管理課 研究活動広報担当：福島 昇

担当研究員：奥山 雄大（植物研究部 多様性解析・保全グループ）

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-851-5159 FAX:029-853-8998

E-mail: tbjimu@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP

<http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物園HP

<http://www.tbk.kahaku.go.jp/>

ニッポンハナダカバチについて

学名：*Bembix niponica*（ギングチバチ科）

特徴： 7月頃、海沿いや河川敷の柔らかい砂地に30cm程度の巣穴を掘り、そこに幼虫の餌となるハエの仲間を獲物として運び込んで産卵します。卵がかえった後、幼虫の成長に合わせて獲物を追加して運び入れ、子育てをするという他の狩りバチではあまり見られない珍しい習性を持ちます。フランスの昆虫学者ジャン・アンリ・ファーブルは本種に近縁なハナダカバチの1種*Bembix rostrata*を研究しており、その興味深い生態については有名な著作「昆虫記」でも詳しく述べられています。

分布： 北海道、本州、四国、九州に広く分布する昆虫ですが、営巣場所となる砂浜や河川敷の砂地環境が開発によって失われているため、全国的に急速に減少しており、環境省第4次レッドリスト(2012年)、茨城県版レッドリスト(2016年)でともに絶滅危惧II類に指定されています。つくば市では過去に記録が無く、おそらく今回の筑波実験植物園内での採集個体が初記録です。茨城県ではひたちなか市、美浦村、坂東市などで繁殖記録があります。

展示： 7月上旬から8月上旬にかけて、筑波実験植物園砂礫地植物区画（海岸性）で観察することができます。（野生生物なので、天候などの条件によってはご覧になれないことがあります）



砂礫地植物区画のノブドウの花で吸蜜しているところ。狩りバチは子育てのために狩りをしますが、自らは花の蜜などから栄養をとります



砂礫地植物区画で巣穴を掘っているところ